

(一般社団法人)大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム  
令和4年度 第4回ナノ理工学情報交流会  
「これからのモビリティを考える」

本年度第4回目のナノ理工学情報交流会を開催いたします。産学双方の意見交換の場として、コンソーシアム会員をはじめ、ご関心をお持ちの多数の方々のご参加を歓迎いたします。

**主催:** (一般社団法人)大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム  
**共催:** 大阪大学エマージングサイエンスデザインR<sup>3</sup>センター、  
大阪大学産業科学研究所産業科学ナノテクノロジーセンター

**開催日時:** 令和5年3月6日(月) 13:00~17:20

**開催場所:** 大阪大学豊中キャンパス 文理融合型研究棟3階305号室

**遠隔配信地:** 四日市商工会議所サテライト教室  
また、オンラインでの配信も予定しております。下記に記載している事務局まで、参加のお申込みをお願い致します。ご指定のメールアドレスに情報交流会参加の招待メールを送付致します。

**開催趣旨:** 現在、自動車産業においてはEV化や自動運転化に向けて、活発な開発が行われている。更に未来の姿を考えれば、新たな動力源やより高度な自動運転システムの研究開発はもとより、新規のモビリティサービスまで、幅広い分野でのイノベーションが期待される。そこで、今回の情報交流会では、これからのモビリティ環境の進化について最新の情報を紹介する。

**費用:** コンソーシアム会員、学生及び大阪大学教職員は無料。  
(コンソーシアム企業会員の場合、社内から何名でも無料で参加が可能です。)  
四日市市商工会議所、けいはんなR&Dイノベーションコンソーシアム会員、  
大阪商工会議所の技術・事業開発研究会及び環境・エネルギービジネス研究会の  
会員企業、日本オプトメカトロニクス協会の会員企業は無料。  
上記以外の参加者は資料作成費として5,000円/人を頂戴致します。

**参加登録:** 氏名、所属、参加会場あるいはオンライン参加、連絡先住所を記載の上、メールにて  
大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム事務局へお申込み下さい。  
E-mail: nano-cons@nanoscience.or.jp  
HP: <http://www.nanoscience.or.jp/>

**登録締切:** 令和5年2月28日(火)

**問い合わせ:** 大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム事務局  
TEL:06-6853-6859(FAXと共通)

# [講演プログラム]

13:00   13:10	<b>開会挨拶</b> 大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム 代表理事 伊藤 正
13:10   14:10	<b>豊田中央研究所における固体高分子型燃料電池の研究・開発のご紹介</b> 吉野 修平 氏（株式会社豊田中央研究所 燃料電池研究領域）  固体高分子型燃料電池は乗用車に加え、商用車、重機、鉄道、船舶といった幅広いモビリティへの応用が期待されている。当所では、種々の運転モードでの初期・運用コストとCO2排出量とを最小化できる材料・設計・制御要件を求めるシミュレータの構築に取り組んでいる。その一環として、当所では性能・耐久性要件を満たすための新規の材料、触媒層構造の開発や、触媒層内物質輸送抵抗の解析技術の開発に取り組んでいる。本講演ではこれらの取り組みについてご紹介する。
14:10   15:10	<b>自律から協調に向けた自動運転システム発展の経緯と展望</b> 佐藤 健哉 氏（同志社大学 モビリティ研究センター センター長・教授）  発売され始めた（自律型）自動運転の車両は、車載センサにより周辺の状態を検知し走行するが、センサの死角にある歩行者等の情報を取得することができない。そこで、路側に設置された設備や他車両のセンサ情報を通信により取得し、走行の安全性を向上させる協調型自動運転システムが検討されている。本講演では、協調型自動運転に向けた発展の経緯と我々が研究開発を行っているダイナミックマップ2.0の展望を紹介する。
15:10   15:20	<b>（休憩）</b>
15:20   16:20	<b>日本におけるMaaSの現状と今後について</b> 古谷 俊英 氏 （国土交通省総合政策局 公共交通・物流政策部門 モビリティサービス推進課 課長補佐）  2018年より、国土交通省では、新たなモビリティサービスであるMaaS (Mobility as a Service)の推進に向けた取り組みを行ってきた。本講演では、これまでの国土交通省によるMaaSへのアプローチ、日本におけるMaaSの取組の紹介のほか、シームレスな移動を実現するためのデータ連携高度化に向けた今後の動向等、日本におけるMaaSの現状と方向性について紹介する
16:20   17:20	<b>次世代空モビリティの社会実装に向けた実現(ReAMo)プロジェクトについて</b> 森 理人 氏（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 ロボット・AI部 主査）  NEDOでは、次世代空モビリティの社会実装にむけた実現プロジェクト(Realization of Advanced Air Mobility:ReAMo(リアモ) project)を今年から5カ年で開始をし、ドローン・空飛ぶクルマの社会実装を加速するべく、性能評価手法の開発や運航管理技術の開発などを進めています。国内外動向などを踏まえ、取り組みの狙い、方向性について、講演をさせていただきます。

## オーガナイザー:コンソーシアム企画運営委員

沖野 剛史	(株)東芝
辻 良太郎	(株)カネカ
前田 和幸	住友電工(株)
鈴木 啓悟	(株)村田製作所
稲垣 克敏	JSR(株)
山木 健之	パナソニック(株)
伊藤 正	大阪大学
藤岡 透	大阪大学